

「鉄道から飛行機、そして車へ（へ）」→ 塀について、考える

塀といえば、或る敷地と他を区切る長い構築物ですね。世界的には、旧ドイツのベルリンの壁や、近年の米国のトランプのメキシコとの国境の鉄条網、古くは中国の万里の長城等が連想されます。それらについて、考察しても実感が無いので、身の回りの仕切りである塀について考えてみたいと思います。

塀は、或る敷地に他人の侵入や通り抜け等を防止する目的で設けられるものです。塀の材料は、人工物と自然物に分けられます。人工物は、金属製・プラスチック製・コンクリート製等で、自然物は生垣や石垣等が最も一般的です。人工物のコンクリートブロック塀は、先年の大阪北部地震時に小学校の塀が倒れて女子児童が亡くなった事例が思い出されますが、現在も多くの場所で見られます。40年超程度のマンションでも見られますので、安全性の点検が必要です。安全性に危惧がある場合は、補強や金属製等に取替えを考える必要があります。塀の周辺の敷地に余裕がある場合は、生垣に取替えが望ましいと思われまます。

ここでは、生垣の樹種の選定について考えてみます。

生垣の樹種は、常緑樹が不可欠で、落葉樹は選ばないことが必要です。落葉樹は、冬に透けて見通せるので、生垣としての効果が半減します。

花が咲くものを選ぶか否かは、花が散ることに賛否がありますので、慎重であるのが無難です。但し、小さい花が咲くもの（プリペット等）は、問題になる場合は少ないようです。

また、生垣は数年に1回は形状を整える為に剪定が不可欠ですが、剪定しても、樹勢が衰えないものが望ましく、樹木の下部の枝が無くなると、通過出来るので、避けるのが望ましいと思われまます。



天王寺駅近くのマンションの道路との境界塀
(コンクリートの手前に竹、壁の隙間は透明ガラスとなっています)

生垣に使われる樹木の例を以下にあげてみます。

1種類の樹木ではなく、幾種類かを数十mおきに植えて、変化を付けることも考えられますので、ご検討下さい。

・カイヅカイブキ

ヒノキの葉の形状に似た常緑で、多くの事例があります。

・ヒイラギ

節分の日にこの小枝にイワシの頭を刺して、鬼除けに使われる樹木で秋には小さい花を付けて、上品な匂いを発する樹木。葉には棘があり、侵入防止の効果があります。

・ベニカナメ

春に新芽は赤く、秋には緑色になる樹木で、緑一色の他の生垣に比べて、目立つ生垣です。

・イヌツゲ

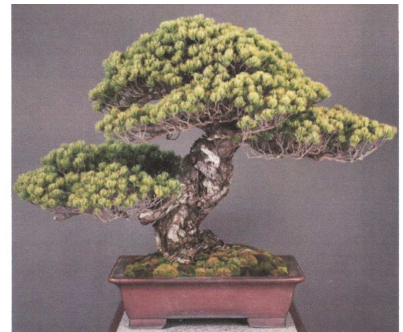
葉は艶のある、小さな葉が密生し多くの事例があります。

・プリペット

大きく刈り込んでも樹勢は直ぐに復旧し、白い小さな花を付ける樹木で、多くの事例が見られます。

番外編

バルコニーに小さい鉢に樹木を植えて楽しむ方もあります。数十年を経過しても、大きくならない育て方があります。何故大きく育たないのか、その理由を調べてみました。



樹木は地上部と地中の根は大きさ・深さはほぼ同じになるものですが、それを利用して、2年に1回ほど根を切って成長を制すれば、地上部の枝の成長を抑制できるそうです。上の写真は550年経過しているのに、数十cmしか無いそうです（但し、150年程度という説も見られます）。幹の年輪がどうなっているのか、MRIで見てみたいです。

(主任専門委員 堤 金次)

🌀 次回のタイトルは、「る」から始まることばです。